

講義名: 国際関係論A <春> 曜時1: 木1 担当教員名: 松村 昌廣		ナンバリングコード: POLS2410 曜時2:	
研究室: 聖アンデレ館10階1010号室		オフィスアワー: 事前アポで月～金(秋学期中)で双方の都合で日時は柔軟に行います	メールアドレス: masahiro@andrew.ac.jp
授業形態			
『講義』			
講義・演習概要			
国際政治関係を体系的に理解するために、国際政治主体、行動、過程、そして構造に注目し、激動する国際政治のダイナミズムを理論的に把握します。この講義では単に様々な理論を知るだけでなく、それを駆使して現実の国際問題を初歩的に考察する能力をつけることを目標とします。			
学習(到達)目標			
毎日、テレビや新聞の国際問題に関するニュースに触れていても、よく分からないことが多いでしょう。ニュースは断片的で、十分な説明もありません。ちゃんと理解するには体系的で理論的な準備が必要です。このため、この講義は国際関係の理解に必要な理論的思考とは何か、主要な理論にはどのようなものがあるかに焦点を絞って教授します。また、刻一刻と変化する時事問題に具体的に触れながら、考察を深めていきます。			
講義・演習計画			
【第1回】 導入 1-1) 国際関係論と国際関係における日本			
【第2回】 1-2) 国際関係論の諸分野、基礎概念及び一般システムの理解			
【第3回】 1-3) 社会科学における認識・方法的論争と国際関係論 (1) 現実主義 VS 理想主義			
【第4回】 1-3) (2) 伝統主義 VS 科学主義			
【第5回】 1-3) (3) 誇大理論主義 VS 個別理論主義			
【第6回】 1-3) (4) まとめ			
【第7回】 総論 2-1) 基本的捉え方 (1) 現実主義			
【第8回】 2-1) (2) 多元主義			
【第9回】 2-1) (3) グローバリズム			
【第10回】 2-1) (4) まとめ			
【第11回】 2-2) 分析のレベル (1) 政策決定システム			
【第12回】 2-2) (2) 国家システム			
【第13回】 2-2) (3) 国際システム			
【第14回】 2-2) (4) まとめ			
【第15回】 総括			
成績評価の方法			
試験	100%	レポート	その他
コメント	原則として、レポート試験(100%)。(既習の理論で現実の国際問題を説明させる形で、持ち帰りのレポート試験を課す。)ただし、受講者が少ない場合、レポート:50% 授業への積極的な参加(討論、発表、授業内課題等の評価を含む):50%。コロナ禍で遠隔講義となった場合は、M-PORTを介したレポート試験とする。完全論述形式(4000字～5000字)で行うため、論文作成が苦手な学生は、登録の際、充分注意するよう。		
テキスト			
著書	ポール・R・ピオティ、マーク・V・ウェッセルズ	タイトル	『国際関係論 ー 現実主義・多元主義・グローバリズム』
ISBN		出版社	彩流社
教科書購入区分	選択なし	備考	(絶版であるので、学生には入手可能な措置をとる)
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
参考文献			
E・H・カー『危機の20年』(岩波文庫) モーゲンソー『国際政治』(福村出版) シューマン『国際政治』(東京大学出版会)			
事前および事後学習の指示 (事前学習 30 時間・事後学習 30 時間)			
講義に合わせて、テキストの該当部分を予習・復習で読解すること。			
その他備考(担当教員用)			
キーワード			
備考(管理者用)			
(旧:国際関係論)02～19E・SS・SW・B・L・J生読替			